

第 1 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和元年 8 月 28 日

会議要録

令和元年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和元年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和元年8月28日(水) 15:00~17:00	
開催場所	島田市役所4階第3委員会室	
議題	<p><協議事項></p> <p>(1) 平成30年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証</p> <p>(2) 第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について</p> <p><意見交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・島田掛川信用金庫とハローワークの取組報告・動画上映 ・高校生からの提案 <p>～高校生が地方創生のためにできること～</p>	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市自治会連合会 伊藤会長 ・島田青年会議所 木村理事長(欠席) ・FM島田 八木社長 ・島田市小中学校PTA連絡協議会 杉本会長 ・NPOクロスメディア島田 大石理事 ・島田商工会議所 岩原会頭 ・島田市商工会 岡村会長 ・島田観光協会 大久保会長 ・島田市農業経営振興会 仲田会長 ・島田樟誠高等学校 杉本校長 ・島田市校長会 池谷会長(第二小学校校長) ・島田掛川信用金庫 三浦理事 ・島田・榛北地区労働者福祉協議会 鈴木会長 ・島田公共職業安定所 井谷所長 ・静岡県立大学(学生) 大池穂乃佳(経営情報学部4年) ・県立島田高等学校(生徒) 片川拓巳(3年) ・県立島田高等学校(生徒) 植田勝也(2年) ・島田市 染谷市長
	オブザーバー	静岡県中部地域局 塚本局長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 駒形課長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・牛尾副市長 ・濱田教育長 ・鈴木市長戦略部長
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員 ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 【資料1】平成30年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書(案) 島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略について(別紙) 【資料2】第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要(案) 【資料3】島田掛川信用金庫とハローワークの取組 【資料4】高校生が地方創生のためにできること 	

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会をさせていただきます島田市市長戦略部長の鈴木と申します。よろしく願いいたします。それでは、定刻となりましたので、ただ今から、「令和元年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。

それでは、はじめに染谷絹代島田市市長から、御挨拶を申し上げます。染谷市長よりお願いいたします。

○染谷市長 本日は御多用の中、第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、今回、新たに構成員となられました皆様につきましては、本会議に御参画いただき、大変嬉しく思っております。

さて、この会議は、本市の特徴を生かし持続可能な社会を創生する、まさに、官民一体となって地方創生の実現に向けて歩みを進めていくことを目的に設置されたものであります。

平成27年5月に第1回が開催され、皆様の意見を汲み取りながら同年10月には、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定した経緯がございます。

この中で、2060年における島田市の人口目標を8万人に定め、今後5年間の計画期間の主要な施策等を位置づけ、地方創生に向けた取組を実施しているところです。

今年度は、「現総合戦略」の計画期間の最終年度であります。過去5年間の取組を総括する大切な年であると同時に、令和2年度からの5年間の主要な施策を定める「第2期総合戦略」を策定し、本市の地方創生に向けた取組を切れ目なく推進していく、本当に重要な年ではないかと私は思っています。

さて、島田市では、30歳代及び9歳以下の年代の人口においては、5年連続で転入が転出を上回る「転入超過」となっております。

これは、子育て支援や移住・定住促進事業など、これまでの地方創生に向けた取組が成果として現れてきている一例と考えております。

今後もこのような成果が継続するよう、構成員の皆様と協働・連携を図って参りたいと考えております。

さて、本日の会議では、平成30年度実績に基づく総合戦略評価書（案）と、第2期総合戦略の概要（案）について、御意見を頂戴したいと思います。

会議後半には、この市民会議をきっかけとして生まれた、島田掛川信用金庫とハローワークの取組の報告、また、本日、参加いただいている高校生からの提案について、構成員の皆様との自由な意見交換の時間とさせていただきますと考えております。

本日の会議が様々な観点からの御意見や御提言をいただき、有意義なものとなりますよう、皆様のお力添えを賜ることをお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

○市長戦略部長 ありがとうございます。

続きまして、本年度初めての市民会議でありますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。

新たに本会議の構成員となられた方、また、島田市の地方創生に向け、若い方の意見を積極的に取り入れていきたいと考え、市と包括連携協定を締結しております静岡県立大学の学生及び、島田高等学校の生徒の方々にも御参画をお願いしておりますので、全ての皆様から御挨拶をお願いしたいと思います。それでは、最初に事務局（当局）からご挨拶させていただきたいと存じます。それでは、染谷市長からお願い致します。

（会議出席者自己紹介）

○市長戦略部長 ありがとうございます。なお、本会議には、オブザーバーとして静岡県中部地域局の塚本局長にも御参画いただいておりますので、一言御挨拶をいただきたいと思っております。塚本様よろしく願いいたします。

（静岡県中部支援局）

○オブザーバー 中部地域局の塚本です。日頃は染谷市長をはじめ、島田市役所、島田市民の皆様には県政に御理解、御協力を賜り、誠にありがとうございます。

先ほど市長の御挨拶の中にもありましたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、2014年に国が法律を制定、2015年に5ヶ年の総合戦略を策定いたしました。それに基づき、全国の都道府県、地方自治体が、地域の総合戦略を策定しております。

島田市は、その中で、全国に先駆けて策定していただきました。

県においても、2015年から5ヶ年の戦略を策定しており、KPIに基づく評価・検証作業を行っています。先般、県内の各界・各層の有識者に御意見をいただく県民会議を開催し、来週からは、県内4地区における地域会議を開催いたします。

県の総合戦略は175の指標で構成されており、数値が確定している133の指標のうち、97個の指標、72%が「B」以上で推移しており、取組全体としては順調に進捗が図られております。

ただし、個別の部分を見ていくと、合計特殊出生率は横ばい、若い世代の転出超過、あるいは、教育環境、子育て支援の充実に注力すべきとの御意見をいただいたところであります。

中部地域においては、地域の新たな魅力づくりの推進や空港や清水港、中部横断自動車道を中心にした多様な交通ネットワークの活用による交流人口の増大、あるいは新たな産業を興すこと、さらに、茶業については、生産量の低下と価格の低迷を踏まえて、さらなる強力な支援が必要との認識をしております。

本日は、島田市の総合戦略の評価・検証結果に対する市民の皆様から御意見を伺う機会ということで、出席させていただいております。

島田市では、染谷市長の強力なリーダーシップのもと、他の市長に先駆けて、高校生が地元企業を知る機会を作ったり、子育て支援策の充実、クラウドソーシングの普及などに努めていただいております。特に、若年層の人口増加に向け、御尽力いただいております。

地域づくりにおいては、県も市も表裏一体でございます。本日、いただいた御意見を、県の計画策定にも生かしていきたいと思っております。

本日はよろしく申し上げます。

○市長戦略部長 ありがとうございます。

なお、本日は、島田青年会議所 理事長 木村 恭輔様が、所用により欠席となっております。

それでは、早速、議事に入りたいと思っております。議事を進めるにあたりましては、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱第3条に基づきまして、議長を染谷市長にお願いしたいと思っております。染谷市長、お願いいたします。

<議事（協議事項）（1）>

○染谷市長 それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

早速議事に入ります。

本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について協議事項が二点ございます。

まず始めに（1）「平成30年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証」について事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料1、資料1（別紙）の説明

市が内部評価として行い、とりまとめた「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書（案）」について、説明した。

- ・島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価・検証（PDCAサイクル）の説明
- ・評価基準の説明
- ・内部評価結果に関する説明
- ・内部評価を踏まえた今後の取組、方向性

○染谷市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はございませんか。

○A構成員 評価書11ページのKPIを見ると、基本目標1の「担い手への農地集積率」「認定農業者数」について「D評価」になってしまっている。ところが、志太榛原圏内の近隣市町と比較すると、島田市は人口に対して、認定農業者数は多いという結果となっている。過去の実績よりも数値が減ったと言っても、評価結果だけを見て悲観するのではなく、近隣と比較した状況も市は把握しておく必要があるのではないかと思う。

○市長 一つ問題提起があったように思います。単独の市町のみを見るのではなく、広域で考えたときに島田市のポジションがどうなのかということについても、

反映することが大事なのだと思います。

- B 構成員 基本目標1の「中心市街地（本通二丁目交差点）の1日当たり歩行者数」について、「D評価」から「S評価」へと大きく飛躍したが、この理由について、15 ページに記載されているもの以外で説明できることはあるか。
- 事務局 び〜ファイブしまだ音楽広場の平成 30 年度の利用者実績については、528 件、2,042 人が利用しました。音楽広場は平成 29 年度終わりにオープンしたため、平成 29 年度の実績に反映することはできなかったのですが、今後も継続して利用状況が高まるようにしていきたいと思います。また、おび通りにてイベントを多く開いていることも、歩行者数の増加に関係しているのではないかと推測しています。
- C 構成員 評価書 10 ページの基本目標1「1人当たりの市民所得」の実績値が下がってきている。一方、同「市内総生産額」は伸びてきている。「市内総生産額」が伸びていれば「市民所得」も上がるように思うのだが、この結果では反対の結果が出ている。これについて説明してほしい。
- 事務局 この数値は、静岡県が発表している「しずおかけんの地域経済計算」というものから引用されています。「市民所得」は、「地域内に住んでいる市町民が生産活動に対して生産要素を提供することによって地域内外から得られる現金・現物等の所得の総額」を計上したものであり、これは、個人だけでなく企業（法人）も含めた所得を計算しています。一方、「市内総生産額」は「地域内の生産活動によって新たに生み出された付加価値の合計額」、いわゆる「GDP」を示しています。そのため、一概に同じ結果になる訳ではありません。また、「市民所得」が伸びない理由については、対象となる法人に中小企業が多いことが原因のひとつではないかと考えられるのではないかと思います。一方で、「市内総生産額」が伸びているという言葉をいただきましたが、市内総生産額の伸び率、経済成長率については、プラス 9.9%と、伸び率で見れば県内 10 番目くらいに位置しています。
- C 構成員 市民所得に企業も入ってしまうということであれば、大きく数字が動くのかなと思われるので、あまり参考にならないのではないだろうか。
- 市長 「一人あたり市民所得」は、企業の所得などを含む、市民経済全体の水準を表す指標であります。市独自で数値を出すことができないため、県で算出している数値を参考とさせていただいております。しかし、農業者や中小企業等も入ってくるということであれば、市内総生産額に比べて低い結果になってしまうのではないかと思います。
- D 構成員 評価書 11 ページ「学校が楽しい児童」「学校が楽しい生徒」の項目について、達成度の評価だけを見ると、「C評価」「B評価」であるが、これは基準値の段階から元々が高い数値で推移しており、正直頭打ちに近い数値ではないかと感じている。評価や実績値だけ見てしまうと、誤解のないようにしていただければいいと思う。

- 市長 この目標値の設定に対する何か意見がありますか。
- D 構成員 様々な事情を抱える子供たちが何%かはいる。その中で、なかなか 100%にはならない。しかし、現場の状況からすると現在の実績値は、事実上ほぼ 100%と言えるものであり、目指す目標値は、120%くらいの成果を求めている様に感じる。なので、そういった事実を勘案していただければ見誤ることはないと思う。一見すると、この目標値は誤解されるのではないかなという数値ではある。
- 事務局 KPI の設定について、今おっしゃられたことも含め、説明があれば納得してもらえるものもあると思います。次期総合戦略策定の中でも、そういった点をふまえて適正な KPI を考えていきたいと思っています。
- 教育長 教育は理想を求めていくものであり、例えば不登校やいじめ等、ゼロにするというのは現実的ではない。とはいえ、あくまでもゼロを目指さなくてはならず、目標は高くするしかない、というところがあります。おっしゃるとおり一般的に言えば、現在の約 85%という実績は既に 100%に値するものであり、目標値である 95%を目指すことは事実上の 120%の成果を求めるものになってしまい、高い目標を設定しているかもしれません。そういった状況については、説明する中で御理解いただけたらと思います。
- 市長 KPI 目標値の設定は難しいものがあります。例えば今回の問題で言えば、不登校や問題のある子供をある程度抱えても良い、という目標値を設定することはできませんし、現実的に評価が下がっているとしても、現場の子供たちの満足度は全国と比べて高いものとなっています。これまでの総合戦略の評価・検証においても、出し方や見せ方について課題あるということは認識しています。行政が取り組んだ事業の成果について、全てが数値化できるものではないのですが、次期総合戦略の策定作業において、いただいた御意見をいかしていきたいと考えています。
- E 構成員 評価書 11 ページ「学校が楽しい児童」「学校が楽しい生徒」について、100%までの差異等から算出していたり、小学校、中学校は個々として算出しようとしている等、特定の理由があるのならばこのままでも良いが、小学校と中学校で結果を比較したいのならば、2つの目標値を同じ方が比較できる。
- 牛尾副市長 策定時の状況についてお話をさせていただきます。策定時は、各会議において色々な方に参加していただき、KPI としてどうかという審議を経てスタートしています。スタート時点は、元気よく高い目標を掲げたほうが良いという御指摘を受けながら設定したものもあり、審議を重ねていく中で御指摘いただきながら考えていきたいと思っていました。このような計画を策定する際は、どうしても既存のデータがあるものから決まってしまうのですが、それが指標として使えるのだろうかという苦しさもありながら、選んでいるという現場の事情もありました。こういった実情も御理解いただき、次期総合戦略では、現状も考慮し、検討していきたいと考えています。

○F 構成員 冒頭、0～9歳、30～39歳が増加しているということをお伺いし、子育てのしやすいまちに、というイメージがこういったところで数値として現れていると感じた。それをふまえて、評価書 20 ページ、21 ページ「保育所等の待機児童数」について、平成 30 年度の実績（平成 30 年 4 月 1 日現在）は待機児童ゼロの目標達成となっているが、21 ページの「平成 30 年度中の達成率に対する要因、効果」欄を見ると、平成 31 年 4 月 1 日現在は「待機児童が 15 人発生した」とのことが記載してある。さらに、10 月から国の幼児教育・保育無償化ということを受けて、それなら子供を預けたいという方も増えると思う。そういった状況をふまえ、今後どのように受け入れていくつもりなのかというところを伺いたい。

○市長 21 ページに記載されている待機児童 15 人は、全て 0～2 歳であり、3 歳以上はほぼ待機児童はいない状況です。そんな中、今年 11 月には、初倉地域と旧島田市内地域 2 か所に定員 19 人ずつ、併せて 38 人の 0～2 歳児を預けられる新しい施設を作ってまいります。島田市はこれまでも、保育所利用料の第二子半額、第三子無償の補助を行ってまいりました。今年 10 月からは 3 歳から 5 歳までの幼児教育、保育の無償化について、国の施策に転換され、全国一斉に実施されていきますが、0～2 歳については国の対象でないため、今後も島田市独自で補助して行く予定です。今年 10 月からの幼児教育・保育無償化により需要は増えていくと見込まれると考えていますが、このような状況もいずれ頭打ちになるものだと理解しておりますので、市内の状況を把握しながら、調整していきたいと考えております。

○F 構成員 地域の活動をしていくうえで、今の時代女性の力がすごく必要になってきていると感じる。NPO においても、女性の割合が 7～8 割を占めている。そういった意味で、女性の方々ができるだけ早く社会に復帰することができる仕組みがすごく大事なと思う。

○市長 ありがとうございます。委員の皆様からいただきました御意見につきましては、担当課にて取りまとめた上で、今回の評価・検証結果とともに報告書として作成し、市議会へ報告させていただきます。
また、庁内での情報共有を図り、今後の事業及び次年度の予算編成等に活かしていき、この総合戦略の評価・検証作業を実効性のあるものとしていきたいと思っております。

<議事（協議事項）（2）>

○市長 続いて（2）の第 2 期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 **資料 2**の説明
市が策定した第 2 期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について、説明した。
・策定に至るまでの経緯

・策定内容の概要 について

- 市長 ありがとうございます。ただいまの説明について、質疑、御意見等ございますか。
- G 構成員 主な施策「まちの魅力を活かして、観光で稼ぐ」とある。先ほどの評価書 4 ページの「観光交流客数」と「宿泊者数」を見ると H29 年度から H30 年度にかけて実績値がぐんと下がっている。これについて何か特別な要因はあるのか。
- 事務局 この数値については、観光課にて、公共及び民間の市内観光施設からの報告人数を集計しているのですが、平成 30 年度（平成 29 年度実績）は、対象施設である蓬萊の湯からの報告をもらうことができませんでした。この蓬萊の湯の利用者が年間平均 25 万人程度おり、その分が平成 30 年度は計上できていません。また、茶の都ミュージアムのリニューアル工事に伴う休館等もあり、合計して 30 万人程度、例年よりも実績が減ってしまったものと推測しています。
また、大きく 40 万人程減少しているのは平成 29 年度実績には大祭が含まれているということが原因です。
- G 構成員 大祭は平成 28 年度だったと思うが、この評価書は正しいか。
- 事務局 観光交流客数については、集計の都合上、1 年遅れで実績が出るため、平成 30 年度実績値欄に記載されているのは、平成 29 年度実績値であり、大祭があった年の実績値は、平成 29 年度実績値欄に記載されている値となります。
- G 構成員 通常は 230～240 万人で、大祭のある年は 280 万人前後ということか。
- 事務局 そのとおりです。
- G 構成員 計上できるものと出来ないものがあるというのは、よくないのではないかと思う。
- 市長 そのとおりですね。また、年度と実績値が合っていないものは記載方法等を再検討する必要があると思います。
- H 構成員 主な施策「誰もが暮らしやすいまちづくりの推進」の中の具其他的な施策「高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進」とあるが、こういったところについてこれからの 5 年間の戦略として推進するようお願いをしたい。そんな中、評価書 11 ページ「お達者度」について、島田市は健康長寿に関してそんなに悪くないと聞いているが、この評価書では「D 評価」になっている。この評価書が事実である、と認識すればよいのか。
- 事務局 これは、この指標が、単純に県内の順位で評価しているため、評価が悪くなってしまうものです。お達者度の考え方である「65 歳以降健康で生

活できる期間」の年数で比較すると、島田市は男性が基準値 17.74 年から実績値 18.50 年、女性は基準値 21.40 年から実績値 21.60 年であり、男女ともに基準値よりも伸びており、決して悪くなってしまった訳ではありません。順位上では悪くなってしまったけれども、年数では右肩上がりになっているということです。

○H 構成員 すると、D 評価は悲観することはないということによいか。

○事務局 そのとおりです。

○市長 KPI の設定において、数字で表すことにより実績と評価が矛盾してしまっているものであります。こういった点も、今後の次期総合戦略策定作業の中で考えていきたいと思えます。

○市長 それでは、時間が押していますので引き続き意見のある方については担当課に直接お話をさせていただければと思えます。
委員の皆様からいただきました御意見につきましては、担当課にて整理を行い、第 2 期総合戦略策定作業の中では改めて検討しなければならないと思えます。

< 意見交換 (1) >

○市長 続きます、次第の 5 「意見交換」に移ります。
本日の意見交換については、2 つの内容について皆様と意見交換ができたかと考えております。
はじめに、この市民会議をきっかけに取組が始まり、金融機関における特徴的な取組事例として地方創生大臣表彰を受けた島田掛川信用金庫とハローワークとの取組についてです。
詳しい説明を、島田掛川信用金庫の三浦理事、お願いいたします。

○三浦理事 島田掛川信用金庫では、昨年度からハローワークと連携し、「企業の人材確保支援」の取組を始めました。具体的には、金融機関が営業活動の中で、人材、雇用の悩みを把握した取引先を対象に、ハローワークと同行訪問を行い、効果的な求人情報の記載方法や、支援メニューの紹介など、それぞれの強みを生かし、中小企業の課題解決を図ったものです。
この取組が、内閣府の選定する 2018 年度の金融機関の特徴的な取組として、地方創生大臣表彰を受けました。これに合わせて、(公)日本生産性本部から動画コンテンツの作成依頼がありました。
そこで、動画作成の分野で高い評価を得ている島田工業高校に対して、制作の依頼をし、今回、その動画が完成したので、皆様にも報告させていただくこととしたものです。
そもそも、ハローワークとの取組も、島田工業との連携も、この市民会議がきっかけで「つながり」ができ、今回のような取組に繋がりました。この会議は、市内産官学金労の様々な分野の方が一堂に会す、貴重な会議でありますので、本日、参加いただいている皆様とも、連携した取組ができればと考えておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

○市長 三浦理事、ありがとうございました。それでは、動画の上映をお願いします。

動画上映（約15分）

○市長 ありがとうございました。
この取組は、この市民会議がきっかけとなり、それぞれの強みを活かした非常に特徴的な取組であります。本日ここにおられる皆様におかれましても、それぞれの活動をより活性化させていくためにも、横の連携を築く場として、この市民会議を活用していただければ幸いです。

<意見交換（2）>

○染谷市長 続きまして、「高校生からの提案」に移ります。
今回、島田高校に市民会議への参加をお願いに行った際、本日ここに参加いただいている、片川さんと植田さんから意見交換のテーマについて提案がありました。
提案については、この後、説明していただきますが、皆様には、このテーマの中で、自由な意見交換の時間にしていき、ぜひ、高校生の提案が実現の方向へ向かっていくような形になればと思いますので、積極的なご発言をお願い致します。
それでは、島田高校、片川さん、植田さんからテーマについて説明をお願いします。

○島田高校 島田高校2年、生徒会副会長をやっています植田です。本日は、よろしくお願ひします。また、このような機会を設けていただき誠にありがとうございます。それでは、早速、提案内容を説明させていただきます。
提案は、「高校生を中心として地域社会や民間企業と連携し、高校生だからできることを強みに、地域に貢献する活動を行いたい」です。
理由としましては、現在、島田高校での生徒会活動は、高校の内部の活動にとどまり、地域社会と関わる活動がなかった中で、銚子商業高校と銚子電鉄の事例を知り、高校生の強みを武器に地域を盛り上げられると思ったからです。
また、先日、全国の高校生が集まる松下政経塾（夏休み生徒会リーダー夏合宿）に1泊2日で参加しました。そこで、他県の事例ではありますが、生徒会が中心となり、他校と協力して、校外で活動を行っている事例を聞き、自分達も何かしてみたいと思いました。
併せて、高校卒業後の進学先や学部を考える時に、「働くこと」・「仕事」を考えて検討したいと思ったが、地元の企業をほとんど知らなかったことから、高校生活の中で、地元の企業と関わることできたら、地元の企業を知る機会にもなり、自分の興味や可能性を広げ、進学先を選ぶことができると思ったからです。
これらのことから、地域・地元を知ること、将来の「働く」を考えることを、地域への貢献活動を通して取り組んでみたいと考えていますが、実際には、高校生だけで取り組むことは難しく、地域住民や地元の企業等と連携することが必要であると考えています。

さらに、島田高校単独での取組ではなく、他の高校と横の繋がりをつくり、取り組んでいきたいと考えています。

本日は、染谷市長をはじめ、幅広い分野から有識者の皆様が集まっておられますので、今後、どのような形で取組を始めていけば良いか皆様からの御意見をいただきたく思います。よろしくお願いいたします。

○市長

ありがとうございました。

今の片川さん、植田さんからの説明に対する御意見、御感想及び御提案等、なんでも構いませんので、自由に御発言ください。

○A 構成員

自分の住んでいる地域は小さな集落だが、「祭り」や「空き缶集め」など、自治会の活動が年に何回かある。高校生には、そういった自治会の集まりに積極的に参加してほしい。大人の方も地域の子どもの何歳でどこの学校に行っているのか等が分からないので、そういった集まりに出てきてもらおうと地域の人とも仲良くなれるし、普段の生活でお互いを知っていれば、万が一災害が発生したときも救助ができたり安心したりすることができる。顔と顔の繋がりを作ってほしいと思う。

○G 構成員

高校生は地元で活躍してほしいと思っている。そのためには、高校生が地元を知っていく事が大事である。地元の人はどんな仕事をしているのか、どんな仕事があるのか、地域の素晴らしさを知ってほしい。そのために、企業側も努力して、伝える場、機会を作り、子供たちに伝えていく必要がある。学校によっては受験等のためにそういったものに参加するのが難しいかもしれないが、知っておく、ということは大切だと思う。お互いを知り、交流を深めていくといいと思う

○I 構成員

F M島田では、高校生が市内企業の魅力を取材し、発信する「高校生、島田のお仕事現場に行く」というラジオ番組を制作している。そこで学生の感想を聞くと、「島田の企業はビックリすることがたくさんある」と答えている。一つの例として、東京ディズニーランドの花火は島田の花火やさんが作っていること、と伝えたときは、「島田にこんな立派な仕事をしている会社があるのだ」と感じてもらった。地域・地元を知る機会として、こういったツールを上手く利用して積極的に参加してもらえたらよい。また、F M島田では、市内高校の生徒会や運動部の活動をお知らせする、ハイスクールラジオというものもある。以前は島田高校も参加していたが、事情により現在は参加されていない状況となっているが、機会があれば是非また島田高校にも参加いただき、島田高校のPRをしてもらいたい。

○E 構成員

高校生のマンパワーを活用することは、今後とても重要になってくる。そのためにも地域を知ることが必要である。島田樟誠高校では、志太地域の史跡や名産品を紹介するカルタを作るためのクラウドファンディングを実施する。カルタを作るために地域を調べることで、島田市を知ることにも繋がるので、まずは知ろうとするきっかけは非常に参考になると思う。一方で、高校生を対象にした企画はたくさんあるが、高校生を対象にした企画というのは単発で終わってしまい、次に続かないことが多い。企画に携わった生徒

がどのように連携していくのか、学生たちの間でも横展開をしていってほしい。あるいは、生徒会が繋げる、という手もあるのではないかな。

- B 構成員 具体的な提案が2つある。一つは、地域の企業を知るために、島田のことをよく知る地元企業の経営者に企業人講話をしてもらうこと。島田市には立派な企業がたくさんあるので、会社を興したきっかけや、今後の島田市をどのように考えているかお話ししてもらおうとよいのではないかな。もう一つは、他の学校と連携すること。生徒会で繋げていくというのはいいと思う。島田市には、おび通りの活性化のための「元気市」というのが10数年前から毎月行われている。しかし、企画力が年々衰え、集客力は落ちてしまっている。そこで、「新しい風」として、各学校が集まってブースを設けて情報発信を試みる、とか、商店街の空き店舗を利用して市内高校の合同文化祭を開いてみたりしてもいいと思う。
- F 構成員 自分は、おびサポが中心となって実施している「ビジネスハイスクール」における審査員や、島田商工会議所が取り組んでいる高校生及び市内企業を対象にした「模擬面接」に協力するなど、高校生と地域・地元を繋ぐ事業に参加している。先ほど、高校生から非常に心強い提案をいただいたが、自分のこれまでの取組を通して感じていることとして、まずは、自分達で課題を見つけたいということ。地域を見た時、何が課題で、解決策を考え、その中で自分たちができること、地域・他校と協力しなければならないことを明らかにした上で取組を進めていくことがいいと思う。例えば、SDGs というテーマの中で、地域を調べ、研究し、課題、解決策を見つけることもいいのではないかなと思う。
- J 構成員 自分は高校生の頃から地域のワークショップに参加していた。話し合いのきっかけにより、高校生は地域を知ることができるし、地域は若者の力を得ることができる。また、地域のワークショップも堅いものではなく、お菓子を食べながらみんなで楽しくやれたので、良かった。
- H 構成員 自治会では、夏祭りや敬老祝賀会、運動会等イベントがたくさんあるので使役として来て働いてもらえるとよい。地域にどんな人がいるのか、どんなことをしているのか、知るきっかけとなる。やれることはたくさんあるので、もし地域に参加したいということであれば、高校生から行っていただければ歓迎する。できれば学校から言ってもらえるとよい。
- K 構成員 自治会や地域のイベント等において、若者の力、アイデアが欲しいということは、どの地域でも共通していることであるため、ぜひ、この島田で成功モデルを作ってもらえたらいいと思う。その中で、地域のために様々な団体が、イベントをしていることが分かったが、そのイベント同士が連携できていないと感じた。そこに高校生が入ることで、イベント同士を繋げ、その効果を最大限に高めてもらえたらと思う。
- 市長 ありがとうございます。
島田市では、おび通りで何かイベントをやりたいという方に最大5万円を補

助するという補助金もあるので、そういったものも使ってもらえたらと思います。また、島田市にはお仕事 室という LINE アカウントがあり、会社の紹介をしています。附属中学校では生徒からの依頼で、市長相手に生徒が自分で考えた政策を発表する会もあり、そのように自分たちで企画・運営することはよいと思います。商業高校ではアプリ開発、工業高校ではジオラマの作成などの連携があるが、島田高校など普通高校との繋がりはありませんので、お二人のような存在はとても頼もしく感じています。市で5つの学校をまとめるお手伝いもできるので、なにかあれば言ってほしいと思います。さて、まだまだ御意見は尽きないかと思いますが、予定の時間となりましたので、本日はここで終了したいと思います。島田高校の片川さん、植田さん、皆さんからの意見・提案をいただきどうでしたか？

○島田高校 皆様、貴重な御意見をいただきありがとうございました。島田高校では、後期からの取組の中で、本日もいただいた意見を踏まえ、新たな取組を検討していく予定です。本日もいただいた意見の中で、学校との連携、地元企業との連携については、学校とも相談しながら進めていきたいと思っています。本日はありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

○市長 ありがとうございました。
本日は、高校生から地方創生に向けた積極的な提案をいただき非常に心強く感じており、また、その提案に対して、皆様からも前向きな意見、提案が出され、とても有意義な意見交換の時間になったと思います。
島田市においても、市内5つの高校と経済団体との包括連携協定に基づき、様々な連携事業を通して、「島田に根っこのある人材」の育成を進めており、第2期総合戦略の中でも、「地域を支える人材育成・多様な主体との連携」として、新たに位置づけていくこととしております。
本日、皆様からいただいた御意見については、庁内で情報共有を図り、今後の事業に活かしていきたいと思っています。
皆様のご協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。ありがとうございました。
それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長 最後に、次回、市民会議の予定ですが、本日の次第、「その他」欄にも書いてありますが、11月19日（火）午前10時00分から、この会場での開催を予定しております。
委員の皆様には、近くなりましたら、改めて御連絡をさせていただきます。
それでは、以上をもちまして「令和元年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。
本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。
お気をつけてお帰りください。

以上